

臨床研究部だより 2026 年 8 月

「国立沖縄病院医学雑誌 第 46 巻 編集後記」

ご多忙のなか国立病院機構沖縄病院医学雑誌 第 46 巻へご投稿いただいた職員の皆様にお礼申し上げます。今年も大変興味深い報告が寄せられました。大湾らは当院における間質性肺疾患の実態と抗線維化薬の使用状況をまとめ、今後の新規薬剤導入を見据えた上でも、日常診療における適切な病態評価と副作用を考慮した治療調整の必要性を提示する内容です。長山らの論文はプログラミング経験のない医療スタッフが生成 AI との対話で家系図作成ツールを開発した報告です。専門的な開発体制がない医療現場における AI 応用の新たな可能性と業務改善のモデルを示す画期的な取り組みです。久志らは緩和ケア病棟への転院・入院調整における電話面談の有用性を実証した活動報告です。終末期患者さんご家族の希望を少しでも早く叶えるための円滑なシステム構築について述べた内容です。また症例報告からも興味深く訓示的な報告が寄せられ、それぞれに深い考察や新たな視点を見出すことができます。

2015 年から本誌の編集に携わってまいりましたが、私が担当するのは今年が最後となります。臨床研究部発足にあたり「よりそう探求心」という理念を掲げました。日々の診療中の疑問や患者さんの抱える悩みに気づき、課題として明確化していく。そして解決策を見出し記録として残し、より良い医療を患者さんへ還元していく。これが臨床研究だと考えています。臨床研究部では、病院全体で臨床研究の気風を根付かせ、次世代へ継承していくよう尽力してまいりました。沖縄病院医学雑誌は日々の研鑽を記録し、未来へ継ぐため重要な役割を担っています。これからも沖縄病院の伝統として本誌が継続・発展していくことを心より願っております。

長年にわたるご支援、誠にありがとうございました。

～よりそう探求心～ 臨床研究部 河崎英範